

令和元年度第2回総合教育会議議事録

日 時 令和2年2月18日(火)
午前9時30分から午前11時40分まで
場 所 ひかりプラザ5階教育資料室

会議の出席者

(構成員)

市長	井澤邦夫
教育委員会教育長	古屋真宏
教育委員会教育長職務代理者	富山謙一
教育委員会委員	佐久間博美
教育委員会委員	大木桃代
教育委員会委員	辻亜希子

(説明員)

政策部長	塩野目龍一
政策経営課長	村越隆治
文化振興課長	杉本守啓
スポーツ振興課長	木村達郎
教育部長兼ふるさと文化財課長事務取扱	
	堀田順也
教育総務課長	日高久善
教育総務課庶務担当係長	千田和宏
学務課長	中島弘美
学校指導課長	富永大優
学校指導課統括指導主事	大島伸二
学校指導課指導主事	關友矩
学校指導課指導主事	野村宏行
社会教育課長	千葉昌恵
公民館課長兼本多公民館長	前田典人
図書館課長兼本多図書館長	戸部伸広

(事務局)

政策経営課職員(2人)
教育総務課職員(1人)

傍聴人 1人

1 開会

市長 皆様、おはようございます。これより令和元年度第2回総合教育会議を開催いたします。大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。マスコミ等の報道では新型コロナウイルス感染症の話題が中心でございますが、本日は与えられたテーマで会議を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、早速ではございますが、次第に沿って会議を進行させていただきたいと思っております。

2 協議・調整事項

(1) 国分寺市教育に関する大綱(案)第2期(令和2年度～令和6年度)について

市長 本日の協議・調整事項については2点となります。まずは、国分寺市教育に関する大綱(案)第2期についてでございます。こちらは令和2年度から令和6年度までの計画となります。昨年8月9日開催の総合教育会議では、「(次期)国分寺市教育に関する大綱の基本的考え方について」を協議・調整事項としまして、委員の皆様より、(次期)国分寺市教育に関する大綱について、様々な御意見を頂戴いたしました。今回はそちらの会議で協議、調整しました内容を踏まえまして、大綱の最終案を御提示させていただいておりますので、国分寺市教育に関する大綱第2期を決定するために、御協議を賜ればと思っております。

それでは、大綱(案)につきまして、政策経営課長より説明をさせていただきます。

政策経営課長 資料1を御覧ください。令和元年度第1回総合教育会議において、「(次期)国分寺市教育に関する大綱の基本的な考え方」についてお示しし、第2次国分寺市教育ビジョン、第2次国分寺市文化振興計画及び国分寺市スポーツ推進計画に基づき、次期教育大綱を策定することといたしました。その後、総合教育会議でいただいた御意見を踏まえ、教育総務課、文化振興課、スポーツ振興課と協議し、大綱(案)をまとめてまいりました。

資料の1ページを御覧ください。策定にあたっての大綱の趣旨、期間を記載してございます。下段の図のとおり、大綱の期間は国分寺市総合ビジョン、第2次国分寺市教育ビジョンなどと整合を図り、令和6年度までとしてございます。また、社会状況の変化等に対応すべく必要に応じて見直しを行う旨を規定してございます。

続きまして、2ページをお願いいたします。大綱の体系図でございます。施策の方向性ⅠからⅣまでは第2次教育ビジョンに基づき、施策の方向性Ⅴ、Ⅵはそれぞれ第2次文化振興計画、スポーツ推進計画に基づいたものとなっております。

3ページを御覧ください。こちらからが教育に関する大綱となります。それぞれ施策の方向性の下に、国分寺市の目指す姿を記載しております。なお、教育大綱では施策の根本となる基本的な目的や方針を定めることとしてございます。

施策の方向性Ⅰから7ページの施策の方向性Ⅳまでは、第2次教育ビジョンの記載を引用したのになりますので、説明は省略させていただきます。

8ページをお願いいたします。施策の方向性Ⅴは、第2次文化振興計画に定める4つの目標を引用して作成してございます。項目の2点目「文化を育んでいきます」については、令和元年度第1回総合教育会議において、文化施設の整備などの環境整備について触れられないかという御意見をいただきましたので、市民の活動の場・機会を充実する旨を追加

で記載させていただいております。また、第2次文化振興計画において、新たな施設の役割や拠点となる施設について検討を進めることなどを規定しております。昨年度、都知事との懇談を行った際にも、井澤市長が都民ホールの設置を知事に要望したこともございます。

項目の3点目「文化をつないでいきます」については、令和元年度第1回総合教育会議において、芸術をつないでいくというイメージがしにくいとの御意見をいただきましたので、文化という言葉の後に、歴史・芸術・環境・社会を加え、芸術を含めた文化を次世代に引き継いでいく旨を記載してございます。第2次文化振興計画において具体的な取組として、異世代交流の推進など文化の継承や担い手の育成、活動支援等の芸術の継承に関する事業を規定してございます。その他については記載のとおりです。

続きまして、9ページを御覧ください。施策の方向性VIは、スポーツ推進計画に定める3つの目標を引用して作成してございます。だれもが参加できる豊かな生涯スポーツ社会の推進となり、3つの施策の方向性と8つの国分寺市が目指す姿を記載してございます。後ほどスポーツ振興課長より資料説明がございしますが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、しっかりと各項目の目指す姿が達成できるよう、さらなる施策の充実を図ってまいりたいと考えてございます。

簡単でございますが、教育に関する大綱（案）についての説明となります。

市長 政策経営課長から説明がありましたが、こちらの大綱につきましては、施策の方向性IからIVまでが第2次国分寺市教育ビジョンに基づいたもの、Vが第2次国分寺市文化振興計画に基づいたもの、VIが国分寺市スポーツ推進計画に基づいたものとなっております。委員の皆様から御意見がございましたらお願いを申し上げます。

大木委員 内容につきましては、全く異議はございません。1点だけ気になる点がございましたので、御検討いただければと思ひまして発言をさせていただきます。

前半のIからIVの教育ビジョンに基づいて作成された箇所と、VとVI、文化振興計画及びスポーツ推進計画に基づいて作成された箇所の国分寺市の目指す姿に関しまして、主体が異なる表現になっておりました。母体となっている計画が異なりますので、それぞれの計画における記載は独自で良いと思いますが、一つの大綱の中で主体が異なると少し分かりにくい印象を与える可能性があるかと思ひました。どちらでも良いのですが、統一したほうが望ましいのではないかと考えましたので、御検討いただければと思ひます。

政策経営課長 御意見を踏まえまして、文言の整理をさせていただければと考えてございます。

市長 大木委員からお話がありましたように、語尾や言い回しのところでどちらが主体か分かりにくい部分がございます。これは市全体で作る計画でありますので、教育委員会と市長部局でスタンスを合わせる形で、読まれる側の立場で記載を見直していただければと思っております。よろしく申し上げます。

佐久間委員 教育委員会制度が変わりましてから5年間、第1期教育大綱に基づいて市長部局と教育委員会が連携を密にしながら教育を行ってきたことにより、国分寺市として質の高い教育を目指してこられたのではないかと感じております。

令和2年度からの第2期教育大綱も、社会状況の変化や国分寺市らしさを盛り込みながら、国分寺市がこれから5年間の目指していく教育の姿が描かれておひまして、一人ひとりが大切にされ、希望を持っていきいきと暮らす市民を想像させる内容となっていると思ひます。次の5年間も国分寺市として誇りの持てる教育施策が実施されますことを願って

おります。

市長 御意見ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

富山教育長職務代理者 佐久間委員からお話がありました。私も同じ気持ちです。

教育の不易の部分がしっかりと位置づけられた部分と、教育の流行と言いましょか、社会が急激に大きく変化する中で、先を捉えて新しいものを取り入れた部分、国分寺市でなくてはできないような歴史や文化をもとにした部分が非常によくまとまっていると思います。

1点だけ質問をさせてください。この第2期は、令和2年度から令和6年度までの5年間ですが、9ページの「スポーツの活動支援の充実とネットワークの創出をします」の中の最初のほうに、東京2020オリンピック・パラリンピックについて書かれています。これは来年度で第2期の1年目に相当しますが、その4年後にはパリでオリンピックがあります。そうしますと、当たり前のことだと思いますが、東京2020大会で行ったものは一過性ではなく、それがレガシーとしてつながれていって、4年後のパリのオリンピックにも発展的につながっていくことを見通しながらスポーツ施策が行われているということだろうと思うのですが、いかがですか。

スポーツ振興課長 こちらの記載ですが、東京2020大会を契機として、市民の皆さんのスポーツへの関心を高めていくといったことで、このような記載をさせていただいておりますが、さらに次の大きな世界大会を見据えて、発展的に次の4年間、またさらに次の4年間という形で施策は展開してまいりたいと考えております。

市長 東京2020大会が行われることを契機に、一過性ではなく、スポーツに対する関心を高め、子どもたちがこれを契機としてスポーツに親しむ環境を作っていく大きな機会だと思っています。その点について富山委員からお話いただきました。

教育長 昨年8月9日開催の総合教育会議の意見もしっかりと踏まえていただいて、改めて大綱を作成していただいたことに感謝を申し上げたいと思います。特に、文化の部分で活動の場・機会を充実させるという点では、市長から直接都知事にお話しいただいたというように、既に動き出していることもございます。また、次世代への文化の継承は、市長部局だけではなく、学校教育、教育全体の大きな課題だろうと思っております。こちらも含めてこれからさらに市長部局と教育委員会の連携を充実させていかななくてはならないと思っております。

今回で様々な計画が令和6年度末に向けての実現ということで、足並みがそろいましたので、そこに向けて一丸となって充実をさせていきたいと思っております。

まず、今お話があったように、東京2020大会を契機としてということもあるでしょうし、様々な点で充実を図ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

市長 教育長からお話がありましたように、これで令和6年度に向けて全ての計画が一致する形で進むということでもありますので、それぞれの部局においても、しっかりとそれを捉えた上で進めていっていただきたいと思っております。

それでは、教育大綱については、先ほど大木委員からお話がありました点について検討いただき、少し修正が入ることを前提に、本日の総合教育会議では御了承をいただいたということで進めたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、本案のとおり大綱を決定させていただきたいと思っております。国分寺市教育に関する大綱は、本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたものとなります。今後、市長部局と教育委員会が

より密接な連携のもと、お互いが大綱に則した運営を行い、市民の皆様の意向をより一層反映した教育行政を実現できるよう努力してまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

（２）今後の教育施策の推進について

市長 協議・調整事項の２番、今後の教育施策の推進についてでございます。

２月６日に開催されました教育委員会臨時会で第２次国分寺市教育ビジョンが決定され、大綱についても先ほどの内容に基づき決定することとなります。この決定を受けまして、市長部局と教育委員会の連携のもと、教育行政のより一層の推進が図られるよう、「今後の教育施策の推進について」を協議・調整事項といたしまして、教育委員の皆様より様々な御意見を頂戴したいと思います。内容は多岐にわたりますので、テーマについては次第に記載しております①「Society5.0に向けた教育の取組について」、②「地域に開かれた学校づくりに向けた取組について」、③「日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組について」、④「東京2020大会後のスポーツ施策・オリパラ教育の推進について」の４点にまとめさせていただき、このテーマに沿って御協議をいただきたいと考えております。

それでは、それぞれのテーマに関する資料の説明に移りたいと思いますが、資料２「第２次国分寺市教育ビジョン」につきましても、２月６日開催の教育委員会臨時会で決定されたものになりますので、説明については割愛をさせていただきます。

資料３から各担当より説明をさせていただきます。今回の協議・調整事項は「今後の教育施策の推進について」になりますので、御協議いただくための参考資料として、中央教育審議会への諮問の内容である資料３「新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問概要）」、また、その諮問に対して中央教育審議会初等中等教育分科会でまとめた内容である資料４「新しい時代の初等中等教育の在り方 論点取りまとめ（概要）」を御用意いたしました。資料３、４について、また、今回４点のテーマにまとめさせていただいた理由について、学校指導課長より説明をお願いいたします。

学校指導課長 私からは国が示すこれからの学校教育のあり方の概要をもとに、本日協議の視点として提示させていただいた４点の設定理由についてお話をさせていただきます。

まず、平成31年４月に文部科学省から中央教育審議会に、「新しい時代の初等中等教育の在り方について」という諮問が出されました。資料３の下部にありますように、Society5.0時代の到来を見据え、初等中等教育の現状及び課題を踏まえ、これからの初等中等教育の在り方について、総合的に検討を進めるという内容です。この諮問を受けまして、中央教育審議会では資料裏面にある複数のテーマについて議論を行いました。

資料４を御覧いただけますでしょうか。令和元年12月には、こちらに記載のとおり、論点の取りまとめが出されました。ここでは新しい時代を見据えた学校教育の姿を、2020年代を通じて実現を目指すイメージとして示しています。今回の学習指導要領の改定の大きな特徴としましては、資質・能力の育成が掲げられた点が挙げられます。資料４では育成を目指すべき資質・能力として、「変化を前向きに受け止め、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成」と示されています。また、資料の下部には、このような教育を実現していくために、学校のチーム力を高め、学校における働き方改革を着実に進めるとともに、特に、このページ以降に示されております事項について検討を深めていくことが必要となっております。

①「Society5.0に向けた教育の取組について」はまさに中央教育審議会の示す新しい時代を見据えた題目であります。

また、②「地域に開かれた学校づくりに向けた取組について」は、明日の教育を支えるための学校のチーム力を底上げする重要な取組になると考えております。

さらに、グローバル化の急速な進展により外国語教育が注目される中、③「日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組について」は、自国の文化を継承・発展させる取組であり重要と考え、視点として示させていただきました。

そして、④「東京2020大会後のスポーツ施策・オリパラ教育の推進について」は、今年度日本全体が一つとなって取り組む東京2020大会において、そのレガシーを今後どのように引き継ぐかは、教育にとっても大切な視点となっているため、この機会にぜひ皆様の御意見をお伺いしたく設定しております。

本日、今後の教育の方向性を多角的、多面的に探るため協議を行う際の視点として、このように4点の取組を提示させていただきました。ぜひ様々な御意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

市長 続きまして、①「Society5.0に向けた教育の取組について」の関連資料である資料5、国分寺市学校教育ICT環境整備について、教育総務課長より説明をお願いいたします。

教育総務課長 それでは、「Society5.0に向けた教育の取組について」、資料をもとに御説明させていただきます。

Society5.0に向けた教育に取り組むためのツールといたしましてICTの環境整備が必要であると考えてございます。

そこで、教育委員会では昨年の8月に国分寺市学校教育ICT環境整備計画を策定いたしました。情報化やグローバル化が急激に進んでいる現代社会で、これからの時代を担っていく子どもたちの育成をするためには、情報活用能力の習得が不可欠でございます。また、新学習指導要領の中でも教育課程全体を通じて育成する旨の規定をしております。ICTの活用による新しい学びの実現が求められているということでございます。教職員におきましては、文部科学省から公務のICT化による教職員の業務負担軽減、教育の質の向上について求められておりました、平成30年度に国分寺市立学校における働き方改革推進プランが策定されてございます。

資料5を御覧いただけますでしょうか。左側に国分寺市と記載されている上段の表でございますが、国分寺市学校教育ICT環境整備計画の概要と、他の関係する計画を載せてございます。

一番上が国分寺市総合ビジョン、2番目につきましては国分寺市教育ビジョンでございます。令和2年度から5年間の第2次国分寺市教育ビジョンにつきまして、2月6日開催の教育委員会臨時会にて御承認をいただきました。3番目が市の情報システム最適化計画、4番目が先ほどお話ししましたICT環境整備計画になってございます。5番目が同じく働き方改革推進プランでございます。

4番目のICT環境整備計画の概要になりますが、下の大きな矢印のところがございます段階整備のところを御覧ください。令和元年度から記載のステージ1からステージ4については、文部科学省が示しました段階整備の内容を国分寺市の状況に合わせてスケジュール化したものでございます。

ステージ1では大型提示装置、本市ではプロジェクターを各教室に1台と、授業を担

当する教員に1人1台の学習用のタブレット型のパソコンを整備させていただいてまいります。

ステージ2は各普通教室でもパソコンが使用できるよう無線LANの整備と同時に、複数のクラスで別々の授業を行えるようシステムの環境を整備してまいります。令和元年度は小学校を、令和2年度については中学校を整備してまいります。

ステージ3とステージ4、こちらにつきましてまだ確定してございませんが、文部科学省で整備の目標としております内容になってございます。3クラスに1クラス分のパソコン、最終的には1人1台専用のパソコンの整備について、こちらにつきましては今後状況に応じて検討をしてまいりたいと考えてございます。

下段の表につきましては、その詳細な内容を記載してございます。

その下に情報セキュリティ対策について書いてございますが、インターネットの強靱化、二要素認証等のセキュリティ強化等について、令和元年度に一括整備を行ってまいります。

その上の校務系ソフトウェアにつきましては統合型校務支援システムを整備し、子どもたちの成績、出席簿、名簿、保健室での利用日誌、健康診断の管理等を一元化することで、教職員の作業事務が軽減されて改善が図られるということになってございます。

最下段に事業予算の金額を示してございます。こちらにつきましては、年度ごとに記載されてございますが、合計で約14億円の費用がかかるという内容になってございます。簡単ではありますが、説明は以上となります。

市長 それでは②「地域に開かれた学校づくりに向けた取組について」の関連資料である資料6、国分寺市のコミュニティ・スクールについて、学校指導課統括指導主事より説明をお願いいたします。

統括指導主事 地域に開かれた学校づくりに向けた取組ということで国分寺市のコミュニティ・スクールについて資料を示させていただきました。

資料6を御覧ください。この資料については、各校のコミュニティ・スクール協議会等で御活用していただくよう、今年度の4月にコミュニティ・スクールである第七小学校、第八小学校及び第九小学校に配布をしたものでございます。

コミュニティ・スクールとは、資料の左上にありますように、学校と地域が力を合わせることによって、互いに信頼し合い、それぞれの立場で主体的に地域の子どもの成長を支えていく仕組みのことを指しております。本市では七、八、九小以外の学校にも学校運営協議会を設置し、地域とのつながりを大切にしておりますが、学校運営協議会とコミュニティ・スクールとの違いはその右に記載がある吹き出しの役割1から3にございます。校長の学校運営について、基本方針を承認する点、意見を述べる点、教職員の任用に関する意見を述べる点ができる点が大きな特徴となっております。現在、教員の働き方改革が注目される中、保護者や地域の方々の協力は欠かせないものとなってまいります。その意味ではコミュニティ・スクールは学校のチーム力を支える重要な仕組みになると考えております。

本市では令和2年度から第五小学校がコミュニティ・スクールを導入する予定でございます。また、令和2年度は毎年11月に行っている国分寺市教育7DAYSにあわせて、コミュニティ・スクールに関する講演会等の開催を予定しており、これを機会にますます導入校が拡大されると良いと考えております。

市長 それでは、③「日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組について」の関連資

料である資料7について、文化振興課長より説明をお願いいたします。

文化振興課長 資料7を御覧ください。国分寺市の芸術・文化の振興施策につきましては、平成29年3月策定の第2次文化振興計画に基づいて各種事業を展開してございます。その事業の中で、文化芸術を観賞・体験する機会を提供するために「文化講座」及び「伝統文化こども教室」を実施してございます。

文化講座の目的は、市民が身近に歴史や芸術、環境に触れ、人とのつながりを感じられるような機会の提供ということで、平成21年度より事業を開始し、今年度で11回目となっております。市民公募や文化団体連絡協議会推薦の委員で構成されます国分寺市文化振興市民会議の企画協力を得て、年に1回の開催となっております。裏面の別紙1にこれまでの開催内容についてまとめてございますので御参照ください。今後の展望といたしましては、講座の内容により、参加者の年齢が偏ってしまうということで、幅広い年代、特に文化を広めるという点で若い世代が来場する講座となるように検討していく必要があるということでございます。

国分寺市伝統文化こども教室の目的は、長い歴史と伝統の中から生まれ守り伝えられてきた伝統文化を、将来にわたって子どもたちが確実に継承し、歴史や伝統、文化への理解を深め豊かな人間性を養うこととでございます。これは文化庁の「伝統文化親子教室事業」の補助対象事業として、平成15年度より事業を開始してございます。令和元年度で17回目となります。令和元年度は日本舞踊、能、詩吟、剣詩舞、和装礼法、茶道2団体、いけばなの8教室を開催してございます。内容につきましては、別紙2を御参照いただければと思います。今後の展望といたしましては、文化を広めるという点で、生徒数の増加が課題となっておりますので、本年度についてはプロモーション動画の作成をしております。今後も広報活動の強化を図ることが必要と考えてございます。

文化講座、伝統文化こども教室ともに、教育委員会の御協力によりまして、各学校に向けてチラシやポスターの配布をお願いしております。また教室のお稽古場として、市立小中学校を借りているという状況でございます。

今後も日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組について、教育施策の推進の一環として連携を図っていけたらと考えてございます。簡単ですが、説明は以上になります。

市長 それでは、④「東京2020大会後のスポーツ施策・オリパラ教育の推進について」の関連資料である資料8「東京2020大会後のスポーツ施策の推進について」、スポーツ振興課長より説明をお願いいたします。

スポーツ振興課長 資料8をお願いいたします。これまで市では、東京2020大会に向けて新たな事業や継続事業のブラッシュアップ等に取り組んでまいりました。この大会を契機として、市のスポーツ施策としてさらに充実してまいりたい、将来的にはレガシーとして残したいということを目指しております。本日は、主な事業を4点説明させていただきます。

1点目はボッチャの普及についてです。ボッチャという競技は御存知かと思いますが、参考までに本日はボールを持ってまいりました。このような白と赤と青のボールを使って競技いたします。これはパラリンピックの競技にもなっており、先の2016年のリオのパラリンピックで日本チームが銀メダルを取ったことで注目を浴びているスポーツとなっております。

このボッチャについては、一般的なスポーツに求められる、走る、投げる、蹴るといったような、筋力や体力をほとんど必要としないところから、障害の有無や体格、体力、年齢

などに関係なく、多くの人が平等にゲームを楽しむことができるという利点があります。また、どの位置にボールを置いたら良いかなどをチーム内で話しながら進めていくため、コミュニケーションが自然に取れるということも効果としてございます。

この東京2020大会を契機として、ボッチャを市内に普及させていくことで、スポーツ振興はもちろん、障害理解の促進や多世代交流など、多方面で課題の解決につながるができるツールにもなると考えております。

現状につきましては記載のとおりとなっております。1点補足させていただきますと、一番下の保育園児と高齢者施設利用者とのボッチャ交流イベントについては、今年度新たに組み込んだことです。国分寺保育園と西国分寺にあります、にんじんホームという施設に一定期間ボッチャの用具を貸し出しまして、この競技に馴染んでいただいて、昨年11月ににんじんホームを子どもたちが訪れて、合同でボッチャ交流イベントを行いました。30分程度のイベントでございましたが、初めて会ったと思えないぐらい、すぐに打ち解けて交流が進んだということがございました。今後のさらなる普及を図るために必要となることについては、こちらに記載のとおりとなっております。

2点目につきましては、体育施設の利用促進です。東京2020大会では市民の皆さんのスポーツに対する関心が高まることを期待されていますので、これを契機として、さらに運動を楽しんでいただくスポーツ施設の利用拡大も図ってまいりたいと考えております。現状としましては、市民スポーツセンターとけやき運動場については、東京都のスポーツ施設整備費補助金を活用しまして、バリアフリー化等改修工事を実施しました。また、今年の8月には、ベトナムのパラ水泳選手団の直前合宿地として市民室内プールを使用いたします。現在も市内のテニスコートで車椅子の方が車椅子テニスを楽しんでいらっしゃるという状況もございます。障害の有無にかかわらず、市の公共施設でスポーツができるということをより多くの方に知っていただくことで、利用の促進をさらに図っていきたくと考えてございます。

3点目につきましては、応援アスリート事業です。こちらから今年度から取組を始めました。現在こちらの資料にある3人の方を応援アスリートとして認定しております。このうちボッチャの唐司あみさんについては、障害者児運動会などのイベントに参加していただき、デモンストレーションを行っていただいております。また、テコンドーの西川さんにつきましては、来月に開催する東京2020大会機運醸成イベントにゲストとして来ていただき、テコンドーの体験指導をしていただくことになっております。今後につきましては、さらに応援アスリートを市民の皆さんに知っていただいて、大会に出場する選手を応援する、支える活動や、実際に会場に足を運んで見ていただくこと、その競技について関心を持ってもらい実際に行ってみることに広げてまいりたいと考えてございます。

4点目はスポーツ関係団体ネットワークの構築です。これまでも市内では、こちらの表に書いてある団体を中心となって、市民の皆さんにスポーツする機会を提供していただけていました。しかし、例えばイベントが重複してしまう、団体の中心となっている方の高齢化に伴い担い手が不足気味になっているという課題を抱えているといった現状がございます。これらの団体の連携を強化して情報共有と、互いに協力できる関係を持って、さらなるスポーツ振興を図ってまいりたいと考えてございます。

市長 非常に多岐にわたっておりますが、一つずつこれから進めてまいりたいと思っております。

それでは、まず①「Society5.0に向けた教育の取組について」御協議いただきたいと思

います。Society5.0や新しい時代の教育については中央教育審議会の資料にもありましており、まずはICT施策の推進が不可欠となります。先ほど説明いたしました国分寺市の学校教育のICT整備に関すること、ICTの活用は教員の働き方改革にもつながりますので、働き方改革等の視点も含めて、Society5.0に向けた教育の取組の中で課題や今後の方向性等、日頃皆様がお感じになっていることを御意見としていただければと思っております。

富山教育長職務代理者 今後の課題として、いわゆるハード面やソフト面あるいはICTが導入されたときの人材育成など、たくさんあると思います。まずハード面を考えたときに、第一にお金がたくさんかかるということが頭に浮かんでまいりました。しかし、配置されるコンピュータの規模によって教育の成果も異なると思いますので、できる限りたくさん導入したいという気持ちを、誰しも持っていると思います。

先ほど、国分寺市学校教育ICT環境整備についてでも説明がありましたが、今後タブレットを児童生徒に1人1台整備するというのは検討をしていくとのことでした。子どもたちに自由に持ち運びができて活用できる、例えば、理科の観察のときにタブレットで写真を撮るなど、1人1台となると、非常に機能的で教育効果も期待できると思います。タブレットを1人1台にという将来のことを考えたときに、国や都がどれだけの財政措置をしてくれるのかということと深い関わりが当然あると思います。回答は結構ですが、1人に1台が行き渡るような方向性を持ちながら、都や国に働きかけて財政措置をしていただいて、それが実現するところを視野に持って今後5年間進めていかななくてはいけないと考えております。

市長 国や都の補助の部分はまだ全体が明らかになっていないと思いますが、今知り得る限りのところでどの程度のものか示されているのか。現時点で構いませんので、御説明をお願いします。

教育総務課長 財政補助という観点でお話でしたが、現在知り得ている情報としては、パソコンに関しましては、先ほども委員からお話ありましたように高額な費用がかかります。わずかではございますが、簡単に金額で申し上げますと4万5,000円ぐらいの補助しか今のところついていないところがございます。5年間のパソコン1台にかかる費用としましては、その約10倍という状況でございますが、さらなる補助等について、教育長会あるいは市長会等を通じまして、お願いをしたいと思っております。簡単ではありますが、以上となります。

市長 このICTに関しては目指す姿は分かるのですが、急激に変わる制度でありますので、我々としてもどのようなスケジュールでこれから進めていくのかというのはなかなか見えにくい部分もございます。また、児童生徒だけではなく、教員も勉強していかなければいけないという状態であります。予算はつけなくてはいけないということでもありますので、頑張っていきたいと思っております。国や都からどれだけ支援が受けられるのかについては、我々にとっても非常に気になりますので、今後とも注視していきたいと思っております。

教育長 財政負担が非常に大きい施策でございますので、この点については教育長会も通して、また国や都に要請をしていきたいと思っております。

ただ、今回市で導入いたしました様々なシステムの中でも、例えば校務支援ソフトなどは都からも御支援をいただいている部分もございますので、一定程度は理解いただいているのかと思っておりますが、1人1台配備するという点については、状況をしっかりと見定めながら慎重に行っていきたいと思っております。

今年度、昨年9月に新たなシステムを導入しまして、先生方には学習機を1人1台配

備いたしました。また、子どもたち用として1校当たり40台程度導入し、いろいろな活用をしていただいているところです。特に第六小学校でプログラミング教育の研究を2年間にわたって行っていただきました。先日は、先生方に体験をしてもらおうと、幾つかのグループに分かれて、小さいロボットを使いながらこんなことができるということで、先生方が児童生徒になって指導を受けるようなワークショップ形式での報告会をしていただきました。多くの市内の先生方が参加し、本当に熱心に取り組んでいただきましたので、この成果が他の学校に広がっていくことを期待したいと思っております。

併せて先日は市内の先生方の教育研究会の発表会がありましたが、その情報教育の部会の発表では感情認識パーソナルロボットのPepperも登場し、その発表に参加をする場面もありました。現在、市内には3体のPepperが学校におり、受け答えをしたり、プログラミングをしたりして子どもたちも楽しんでいると聞いております。そのような遊びの中で新たな活用方法を模索しているという状況です。

学校で40台ということですが、小学校ではクラスに持って行って1人1台の形で活用する場面や何クラスかが班に1台ずつ持って行って、クラス全体ではなく班ごとに活用する場面など、いろいろな活用の仕方をしています。先ほどお話があったように、理科の時間に観察に行くあるいは体育でビデオを撮影してそれを見直して技のコツについて分析するというような活用をしている学校もございます。様々な活用がスタートしたところで、授業参観に行ったときにも先生方に多く活用していただいている状況がございます。若い先生が多くなっており、活用する意欲が非常に高い先生が国分寺市内にはいらっしやるということを感じた次第でございます。現状としてお話をさせていただきました。

富山教育長職務代理者 私も学校を訪問して、想像できないような有効な使い方をしてのを見て、本当に現場はすごいと思いました。ICTが導入されると、いわゆる知識理解という繰り返しの学習のところで、非常に短い時間の中で確実な知識を身につけさせることができますし、そうすると空いている時間が多くなりますから、読解力を初めとした思考力・判断力・表現力といった探究的な授業をする時間が増えます。昨年公表されたPISA2018の結果で、日本は数学的リテラシーと科学的リテラシーは高水準でしたが、読解力の順位は落ちてきてしまったという課題もICTの導入によって好転してくるということが言われております。そうしますと先ほどの教育長のお話もありますが、それをいかに活用して子どもたちの生きる力、学力を高めていくかというICTを使った指導力を高めるということが現場の最大の課題になっております。その面に非常に良く取り組んでいることを学校訪問で感じております。そのあたりについて追加の説明があればつけ加えていただきたいと思えます。

教育総務課長 現場で活用していただいているというところでございます。まだ委員の皆様のお手元にはお配りできてございませんが、今度発行されます教育広報紙では、ICTを活用した授業についての特集を組ませていただいております。その中に子どもたちの声と先生の声が載っております。先生からは今までは一つの資料を子どもたちの人数分コピーをしていたところですが、子どもたちが同じ資料を共有できるようになって本当に時間が効率的に使えるようになった、子どもたちからは、小さくて軽くキーボードが取り外せるために写真や動画が撮影できるようになったという声を聞いてございます。今後、学校の先生方や子どもたちにも活用していただく方向で進めていきたいと思っております。

市長 Society5.0は、ここは総合教育会議なので、教育現場の話ですが、これは社会全

体の話で教育長と富山委員からお話がありましたが、子どもたちは順次馴染むようにプログラミング教育から入って、そういう思考回路ができて当たり前の状態ですが、ついていく大人のほうが大変ではないかと思います。先ほど学校の先生の話が出ましたが、先生も本当に大変だと思いますが、保護者にも理解してもらわないといけないことではないかと思っております。そのあたりの考え方についてはどのように思われますか。

佐久間委員 私自身が書いて覚えた世代ですので、先ほど富山委員からも効率的に知識理解が図られるのではないかと御意見ありましたが、基礎学力の部分の定着という点で言うと最近の子どもはただで覚えられるのだろうかということが、少し心配になります。限られた授業時間の中で、手や体を使うという反復練習や体験活動と両立していくことは大変なことではないかと感じているところです。まだ分からないのでそのような不安があるということなのですが、そのあたりは学校で、学校指導課が中心となっていて、上手な授業の進め方を先生方と一緒に研究していただければと思っております。

市長 辻委員はいかがでしょう。お子様もおられるということで、保護者とお子様の両方の立場から御意見いただければと思います。

辻委員 私も自分自身はICTを活用した授業を受けてこなかったものですから、言葉や文章でただで果たして上手くいくのだろうか、かえって先生方の負担が増えるのではないかという懸念ばかり浮かんでしまいます。しかし、実際に学校に足を運んで授業を拝見すると、例えば先日に第十小学校の道徳研究の発表会などを拝見しましたが、上手にプロジェクターを活用されていて、効率的にと言いますか、児童みんなが共有するということがとても上手にできておりました。いろいろな教室でそれがなされているのを複数拝見して、このような活用ができるのだということを感じました。

したがって、やはり見てみないと分からないことが多いと思います。現在でも国分寺市内で学校公開を頻繁にいただいていると思いますが、今回は児童1人につき1台タブレットを使って授業しますなどと事前に宣伝していただいて、子どもたちがタブレット、ICT教材を全然違和感なく活用していて、このような効果や成果が得られているのだということを保護者に見てもらえる機会が大事であると思っております。私自身もタブレットを使った授業は実は見たことがないものですから、どうなのだろうという気持ちと見てみたいという気持ちの両方がございます。

学校指導課長 今年度も、そして来年度も学校に声をかけておりますが、私たちも学校を訪問する際に積極的に活用している姿を見たいということで、授業への取組をお願いしております。先ほどお話くださったように、子どもたちへの視覚的な資料の提示という点では非常に有効で、よく分かるという部分がありますので、そのような活用をさらに促してまいりますし、来年度に向けて私たちも指導していきたいと思っております。

大木委員 少し理念的なものも入ってしまいますが、そもそもSociety5.0自体は我が国が目指すべき未来社会の姿という理想像としての科学技術の施策です。まだ実現に向けては様々な困難を伴うと内閣府自身言っておりますし、抽象度は高いですが、内容としては素晴らしい目標ですし、近年の科学技術の発達をまさに人間の幸福のために応用していくとする施策方針だと理解しています。

重要なのはその科学技術を用いる人間がどのような理念や目的を持ち、どのような方法のもとで活用していくかということだと思います。まさに自ら主体的に取り組んでいかないと、ビッグデータをもとにしたAIなどから示された提案をただ受けとめるだけという、ロボットに支配される状況になってしまうと思います。だからこそ、これからの時代を担

子どもたちには、確実な基礎学力をもとに自ら主体的に学び、論理的に思考し、それを適切に発信する能力が必要になるのだということだと考えます。使用できるツールがより変化し、発達しているからこそ、それを使用する側の能力も柔軟で能動的なものにならなければいけないということです。そういう前提があって、初めてこういったプログラミング教育という言葉が出るはずなのですが、世間一般を見ておきますと、その言葉だけがひとり歩きしてしまっています。なぜこのようなことを教育現場に取り入れるのかという、その本質を受け止め切れていないのではないかと思います。保護者などの一般の方々にプログラミングが学校で導入されるとなると、塾のようなところに通わせなくてはと恐れられてしまうという弊害があるように感じております。だからこそ、私たちからはもう少ししっかりとした理念をもとにして伝えていくことは必要なのだろうと感じておりました。

また、個々の授業においては、子どもたちはそのようなことを非常に楽しんで、より学んでいると思いますが、個々の学びをどのように統合させ、発展させていくかということは、まだ過渡期なのではないかと受け止めております。

先ほど教育長からお話がありました、六小が東京都の平成30、31年度のプログラミング教育推進校として研究を進められて、先日素晴らしいパンフレットを頂戴しました。その工夫や成果、さらにどのようなことが課題かということを積極的に発信していただいていると思いますので、これを参考にして、より市全体としての具体的な目標や方法論、理念も重要です、方法論も非常に重要だと思いますので、そこを発展できるように先生方にも御検討いただければと思いますし、当然教育委員会としても一緒に考えていくことだろうと思っております。

私は大学に勤めておりますが、その現場でも、大学生でも論理的思考力と基礎学力の不足というのは非常に懸念される場所です。レポートなどを見ておいても、AだからB、BだからCというように、本人は論理的に話を進めているつもりなのですが、実はなぜAだからBと言えるのかという根拠の不明確や、AからBと持っていくまでには、実は個々に非常に論理的に展開をしていかななくてはいけません。ところが飛んでいて、自分の頭の中だけの思い込みでそのように記述しているということを痛感しております。それは今までの受験のテクニックという教育で、こうだからこうという思い込みと言いますか、テクニックだけ学んで中身が伴っていないからではないかと思っております。まさにプログラミング教育は、そこを一つ一つしっかりと押さえていかないと次に進まないということをおぼろげに学びますので、このような論理の欠如を自ら理解して修正していくことを、子どもたちから学べるのではないかと考えております。

このような活動は、基礎学力が伴って初めて実施できることですので、より子どもたちの学びを深める、より理解を高めるということを考えますと、このICT環境の充実によって個々の子どもたちの学習環境が整いまして、個々のお子さんの興味関心あるいは理解力のレベルなどにも合わせて、より理解を深めることが可能になるだろうと考えております。

中教審の答申などいろいろ見ていまして、どうしても何となくSociety5.0のところ、技能や知識などがメインに見えてしまう、強調されているということがあります。自他の尊重やコミュニケーション能力の涵養など、人として大切な面をより育むために、こういったツールを使うのだということがあると思います。そういうことが基盤にあって初めて今回の議論が成立すると思っております。

先生方には新しいものを学びつつ、今までのものも大切にしていこうということで、御負担が大きくなる部分もあるかとは思いますが、私たち教育委員会としても先生方を支えて

いけるように、御一緒に考えていければと、私たち自身も学ばせていただければと思っております。

市長 大木委員からまとめのようなお話がありましたので、私がつけ加えることはないのですが、結局は、ICTはあくまでツールです。基礎的な知識は、ICTにかかわらず、やはり進めていかなければいけません。しかし、現場の先生方のお仕事が本当に増えてきております。資料にも書かれているように、虐待やいじめの対応件数が増えています。したがって、ICTに振り回されるのではなく、教員の働き方改革も含めてそれを多方面に上手く使っていきたいと思っております。

それから、子どもたちは当然に教育の中でICTを使いながら幅広く教育が受けられることとなります。私としては、量的なものがある程度緩和されるのではないかという認識がございます。

最初に申し上げたように、これは教育の現場だけではなくて、社会全体がそうなってきていますので、我々も自分たちの課題として捉えていかなければいけないだろうと思っております。大木委員のほうでまとめていただきましたので、現場ではそれを実践していただければと思っております。

テーマが多いので、次へ進みます。続きまして②「地域に開かれた学校づくりに向けた取組について」でございます。①の議題でもありましたとおり、これからはSociety5.0を見据えるということもあり、これからの教育を取り巻く環境は大きく変化することが予測されます。この環境変化に順応するためには、学校、家庭、地域が連携した学校のチーム力を高める必要がありますので、地域に開かれた学校づくりという視点がますます重要となります。地域に開かれた学校づくりを推進するにあたり、課題や今後の方向性、市長部局と教育委員会の連携等の視点や、先ほど御説明がありましたコミュニティ・スクールも含めて御意見をいただければと思っております。

教育長 広く地域に開かれた学校づくりということで、国分寺市ではコミュニティ・スクールを市立小学校3校で実施させていただいております。いよいよ4校目ということで、第五小学校が名乗りを上げて、令和2年度からスタートするという運びになりました。

この流れは、これからさらに進んでいこうと思っております。今回の新学習指導要領のキーワードでも社会に開かれた教育課程という言葉があります。学校だけで教育が完結するのではなく、地域とともに学校教育をつくり上げていくという一つの考え方でございます。

また、先ほどからお話に出ている先生方の働き方改革という点でも、教師の役割を明確にするとともに、地域の役割、保護者の役割、社会全体でどのように子どもたちを育てていくかということがこれからさらに求められていくのではないかと考えています。そのような意味でも、より一層地域に開かれた学校づくりは必要だろうと考えています。

一方で、全ての学校が同じように開かれた学校ではなく、私の考え方ですが、やはり国分寺市ならではのことはきっとあると思っております。国分寺市の地域を生かした学びや、国分寺市の人々が学校教育に参加していただくというような国分寺市らしい学校づくりがあると思っております。さらに、国分寺市内でもそれぞれの地域で異なることもあろうかと思っております。例えば、現在コミュニティ・スクールに指定されている第七小学校は、商店街を抱えた地域ですので、職場体験なども3、4年生からスタートして、地域の方に御協力いただき、素晴らしい体験的な学びをしております。第八小学校は、はげの学習が非常に有名で、ここからスタートいたしました。また、第九小学校も地域の恋ヶ窪村分水などでの学

びがございます。このようなそれぞれの学校、地域の特色もプラスされていくだろうと思います。それによって、より一層地域コミュニティが充実し、豊かな地域になって、子どもたちも豊かな学びを通して大きく成長して、将来的には地域に、市に、そして日本や世界に貢献できる人材に育ててほしいという願いを私は持っておりますので、これからより一層地域に開かれた学校づくりを推進していきたいと思っております。現状ということで、改めてお話をさせていただきました。

市長 地域で子どもたちを育てるということは、既に国分寺市内はいろいろなところで行っていただいておりますが、実際に地域の方々に加わっていただき、御意見をいただきながら、学校と一体となって子どもたちの育ちを応援していく姿がコミュニティ・スクールだと思っています。各校でも随分歴史があります。各自治体においてスタートの時期は違いますが、その中でも少しずつ変わってきているのではないかと、私自身はコミュニティ・スクールについては思っております。委員の皆様から御意見を伺いたいと思います。

富山教育長職務代理者 従来から社会総がかりで子どもを育てるという言葉があり、新学習指導要領では開かれた教育課程という言葉があります。この二つのキーワードから見て、本当にそのような視点に立って学校が経営されているということ、市立全15校の学校だよりから毎回具体的に感じます。

社会に開かれた教育課程と言ったときに一番大事なものは、私の学校ではこのような子どもを育てたいという、目指す子ども像を明確にして、その旗印を地域に知らせていくことが第一段階だと考えます。それが至るところで、細部まで入って行って、それが開かれているというのが国分寺市の15の小中学校の実態であろうと思います。

さらにそれが進んでいったのが、このコミュニティ・スクールだと、先ほどの教育長のお話の実例の中から実感いたします。現在は学校の育てたい子ども像に対する様々な計画を地域に出して行って、地域の人材やポテンシャルはたくさんあると思いますので、そういうものを取り込んで、学校がチームとしてその教育活動を大々的にしていくことが必要です。このことは古くから言われてきましたが、なかなかそういう体制に入りにくくなっている面もあります。コミュニティ・スクールによって、このような先生が必要だという意見を言うことができる仕組みがあるということは、国分寺市には学校の中にも地域にもそういう地盤がありますので、コミュニティ・スクールという新しいシステムを導入することによって、さらに国分寺市の教育が進展していくことが目に見えるような感じがいたしております。

大木委員 私もこのコミュニティ・スクールという仕組みに関しましては、まさに富山委員がおっしゃったように、学校だけではなく、保護者や地域の方々みんなで子どもたちを育てていこうという視点で、非常に素晴らしいことだと思っております。

一つだけ懸念しておりますのが、御支援くださる地域の方々が、どの程度、継承と言いますか、つながっているのかということが気になっております。つまり、先生方は御異動があり、保護者の方もお子さんたちが卒業すれば変わっていくだろうと思います。そのときに地域の方たちが、固定した方しかいつも御支援いただけないとなりますと、今度はその方々がある程度の御年齢になり、支援が難しくなったときに、どの程度までそのようなことを引き継いで、つまり下の代の方々が、別にその学校の保護者の方という必要はもちろんありませんが、多くの方々に御支援をいただけているのか。まさにそれが持続可能な支援となりますが、そのあたりの状況はどのようになっているのかについて懸念はしております。

市長 いかがですか。課題も含めて少しお話いただければと思っています。

統括指導主事 コミュニティ・スクールの協議会の委員につきましては、毎年教育委員会で学校から推薦していただいた方を御紹介して、承認をいただいております。その中でも近年御指摘いただくのは、何年目の方が何人ぐらいいらっしゃるのかということや、男女比などたくさんのお意見をいただいております。学校にはその都度、教育委員からこのような御指摘がありましたとお伝えして、次年度の委員の選出に考慮をいただいております。

学校も、職員は代わりますがコミュニティ・スクールの委員は残っているというメリットは十分に把握をしていると思います。先ほどお話しいただいた継承の視点も持って、今後も選出を進めていくように伝えていきたいと考えております。

佐久間委員 先ほど教育長から、地域の特徴をそれぞれの学校が生かして、コミュニティ・スクールを行っているというお話がありました。大変素晴らしいことだと思っております。さらに、国分寺市ならではのとお話もありましたが、私もその点についてはこれから取り組んでいったらよろしいのではないかと考えております。国分寺市はロケットや新幹線発祥の地であり、またリオン株式会社や日立中央研究所などがある先端技術の部分と、1,300年の歴史のある文化財や遺跡のあるまち、その両面のことで特徴があることは、皆さんも御存じのことと思っております。また、こくベジやこの後テーマになります伝統文化を推進していることなど、子どもたちと地域の方々が共に取り組めそうな分野が国分寺市内には幅広くそろっているのではないかと考えております。

また、中学校と地域のかかわりについて気になることがありまして、第2次教育ビジョンの29ページの「確かな学力を伸ばします」の下のほうに、「全国学力・学習状況調査」の調査結果について触れられています。最後の段落で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか。」との質問について、中学校では肯定的な回答が都の平均より2～4ポイント低くなっていることが課題であるとなっております。現時点で、中学校にはコミュニティ・スクールはありませんが、学校運営協議会があるとのことですので、国分寺市の特徴を生かした活動への参加や、それを部活動に取り入れてみることなど、地域の皆さんと検討していただき、子どもたちの国分寺市に対する郷土愛や社会貢献をしていくことの意欲を共に育てていくことにつなげていただけたらよろしいのではないかと思います。

市長 この点は教育長が答えを持っているのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

教育長 この調査結果については、国分寺市の中学生が謙虚なのか、実際課題として持っているのかはなかなか分析しにくいところではありますが、子どもたちにも地域を意識してもらいたいという思いはあります。校長先生方からも同じような意見があり、より一層の社会貢献、ボランティアを推進していきたいと、ある中学校の校長先生は全校に募ってそれに向けて動き出しているということもございます。

それから、もう一方でコミュニティ・スクールの推進というお話をいたしました。国分寺市の特徴としては小中連携ということをこれまで研究してまいりました。私としては、中学校区も一つのコミュニティの範囲だろうと考えておりまして、小中連携に加え、もしかしたら小学校区と中学校が一体となったコミュニティ・スクールのようなものも、これから考えられるのではないかとすることは、国分寺市公立小中学校校長会でも投げかけをしているところでございます。そうなってくると中学校での学びも変わっていくでしょう。

また、決して地域に貢献をしていないというわけではなく、例えば第二中学校の防災に

かかわる活動には本多連合町会の皆様に協力していただきまして、非常に充実した会になっております。今年もこれから開催されるということで、各学校の具体的な活動を見ると、意外と地域に根ざした活動もあるのではないかと考えております。

先日、こくぶんじ写真コンクールがありました。商店街のある風景の入選作に、職場体験を行っている中学生の写真がございました。このように地域の方にも本当に温かく職場体験を受け入れていただいて、子どもたちもそれに本当に感動しながら活動しております。地域のつながりは、徐々にですが深まっていったのかなと考えております。

委員御指摘のような課題もある一方、今お話ししたような実践をさらに充実させていければと考えております。

市長 コミュニティ・スクールや学校運営協議会だけではなく、地域が本当に広い範囲で学校を支えている姿を、私も市内各地で見受ける機会が多いのですが、本当に地域の方々が一生懸命になって学校を支えていただいております。やはり地域の方しか持っていない情報もございます。それは先ほどお話があったように、今までの歴史や地域の特性だと思います。それを提供することによって、子どもたちが自分の住んでいる地域に誇りや愛着を持つことにつながれば、自然とそれが強まってくるのではないかと考えておりますので、コミュニティ・スクールだけではなく、多くの活動を融合させて行っていくということ、地域の方々に以前から続けてきていただいている活動を市長部局と教育委員会として支え、バックアップしていくということは必要なのではないかと考えております。

辻委員 ただいま市長から学校が地域によって支えられているというお話がありましたが、見方を変えると、地域も学校によって支えられているという面があると思います。私も自分が子どもを持つ前は、学校とのかかわりは、選挙の投票所であることや避難所になっていることなどでしかなかったのですが、それでも自分の住んでいるところの学校だという意識はありました。そのような意味でも、社会教育や防災の観点からすると、地域が学校に支えてもらっている面はあると思います。それを前提として、国分寺市には、私のように他の地区から移り住む方が増えていると思いますので、ぜひ大人になってから国分寺市に来た方にも、私たちの市で私たちの学校、学区という意識を持ってもらえるような工夫が何かできたら良いのではないかと考えました。もちろん、お子さんがいない方や単身の方も多くいらっしゃると思いますので、その方も含めて地域と学校のつながりができたらとても理想的ではないかと思っております。そのように考えると、コミュニティ・スクールの良い面を知らせる機会が具体的に思い浮かばないのですが、子どもがいれば学校を通じて知る機会もありますが、何とか市民の方全員に知っていただける機会があると良いという事は、抽象的ですが思いました。

市長 国分寺市の場合、面積は狭いですが、中学校区単位で小学校も一緒になって行っていることはたくさんあります。例えば、六小、十小、五中が青少年北地区委員会という集まりで活動していただくなど、市内各地において地域の方々が一生懸命になって活動していただいております。そのもととなっているのは、地域での活動、お祭りであったり、そういうものを通じて学校が集合場所になっていたりして、そういうものがオーバーラップしていくことによって、より身近な存在で、自分たちが頼りにするような場所で、それは子どもにとっても大人にとっても同じような存在になるということです。コミュニティ・スクールというテーマでしたが、学校と地域の結びつき、お互いにそれを共有し合っていくことが本当に必要だと感じるころであります。

他のテーマもございますので、このテーマについてはここで終了とさせていただきます。

続きまして③「日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組について」でございます。国分寺市文化振興条例では、文化の振興に係る市民、事業者等及び市の役割を明らかにし、参加と協働により文化の振興に寄与し、もって心豊かな市民生活及び活力ある社会の実現を図るとされております。このことを実現させるための施策について市長部局、教育委員会の連携の視点も含めて御意見を聞かせていただければと思っております。

佐久間委員 国分寺市におきましては、かねてより多種多様の文化活動が盛んに行われており、国分寺市としても力を入れて取り組んでいただいているということ、そのことにつきましては、市の内外に知られているところと認識をしております。

この度、「日本の伝承文化の継承と発展に向けた取組について」が総合教育会議のテーマとなりましたこと、先ほど学校指導課長からグローバル化が進む中、自国の伝統文化を尊重していく視点が大切であるという御説明をいただきました。そのこととともに、今年度はオリンピック・パラリンピックが日本で開催されるに当たって、スポーツとともに、日本の伝統文化や伝統芸能を推進していきましょうという動きに呼応するものであると考えております。

日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組につきましては、平成29年度第2回総合教育会議の協議・調整事項「グローバル社会で活躍する人材の育成について」及び平成30年度第1回総合教育会議の協議・調整事項「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組について」の話合いの際にも少し触れさせていただいております。その中では、主として、日本人としてのアイデンティティを育み、外国の方々と交流していくことが大切であるという観点から、学校における伝統文化教育の取組、国分寺市伝統文化こども教室の取組と課題について話し合わせ、市の企画で文化交流を行う際には、伝統文化こども教室の講師陣や、多くの伝統文化・芸術の指導者が所属する国分寺市文化団体連絡協議会と連携を密にして行うという内容で、話合いが進んだと記憶しております。

会議の開催から月日が流れましたので、それぞれの取組が進展しているのではないかと思っております。そこで、学校指導課と文化振興課にお尋ねしたいと思います。

まずは学校指導課に学校の取組についてお伺いしたいと思います。平成29年度第2回総合教育会議におきましては、各学校に共通するものとして中学校の和楽器、小学校の和食文化など授業内の学習として取り組まれているもののほか、特徴的なものとして平成28年度及び平成29年度の九小の伝統文化教育推進校の取組、三小及び九小のクラブ活動である「和心クラブ」、四小の6年生の伝統文化体験授業などについて御紹介をいただきました。その後、それらの活動の定着や他校への広がりなど、特徴的なものがありましたら御紹介いただきたいと思います。

統括指導主事 伝統文化に対する学校の取組につきまして、以前、和楽器や和食などを御説明させていただきましたが、この件については各学校の教科又は食育の中で継続して取り組まれていると考えております。

また、第九小学校において平成28年度及び平成29年度に都の事業として行われました、日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業で研究を進めてきました。その中ではお茶や花道、わらべ歌などに取り組んできたといった経緯がございますが、その中でも国際理解ということにも取り組んでおりました。

その後につきましては、大きいのはオリンピック・パラリンピック教育になると考えております。オリンピック・パラリンピック教育の中では、国際理解について大きく取り上げられており、特に、豊かな国際感覚を育む、日本人としての自覚と誇りを養うことが

育てるべき資質・能力として掲げられております。各学校ではオリンピック・パラリンピック教育に絡めて、伝統文化に関する取組を進めてきていると考えております。

また、今年度につきましては、第七小学校において都の事業である文化プログラムを活用しており、和太鼓を学ぶ取組等も進んでおります。各学校で都の事業等も活用しながら、またオリンピック・パラリンピック教育の中で、伝統文化について様々な形で学んでいるという現状でございます。

佐久間委員 様々な取組が定着し、またオリンピック・パラリンピック教育につなげて各学校にも広がっていることを伺い、大変素晴らしいことだと思っております。

学校において、子どもたちが多くの伝統文化に触れながら育つためには、先生方のたゆまぬ研究と、地域で活動している講師の先生方の御協力が共に必要であると思っております。多くの方に御協力をいただきながら継続していくために、伝統文化に関する授業や活動を行う際に、保護者や地域の方にその様子を見ていただけると良いのではないかと考えております。

文化振興課長 佐久間委員からお話ございました保護者への周知についてですが、資料7にもございますが、今年度は国分寺市と地域活性化包括連携協定を結んでいる専門学校の協力のもと、プロモーションビデオを撮影させていただきました。現在編集中心ではございますが、SNSなどのメディアも活用して、保護者にもPRしていきたいと考えてございます。今後の活用については、現在、専門学校の生徒とも協議してございますので、どのような方法のPRが有効的なのかについては今後研究していきたいと考えてございます。

市長 国分寺市は文化都市国分寺ということで、総合ビジョンにも高らかにうたい上げております。しかし逆に言うと、伝統文化を既に自治体としても地域の人たちも持っているということになります。先ほどのお話にもつながりますが、子どもたちが地域の方々などから伝統文化について教えていただける環境があるということは本当に恵まれているので、それをつなげていくことが必要だと思っております。

富山教育長職務代理者 私も歴史文化や史跡の文化、芸術文化など国分寺市ならではのものが、それが素晴らしく熟成されていると実感しております。そこで、東京2020オリンピック・パラリンピック教育に関連して、おそらく国内外の人たちが国分寺市に関心を持つあるいは訪れることが今以上に多くなるのではないかと思います。そうしたときに、この素晴らしい芸術文化を国分寺市の中だけにおさめておくのはもったいない感じがいたします。そこで、芸術文化について大人も子どもも発表する、あるいは発表される相手も文化や芸術がありますので、発表し合う場があれば良いと思います。SNSでも良いですし、実際に会って発表するのであればなお良いと思います。せっかくのオリンピック・パラリンピック教育の中で、人がたくさん来ることを考えると、そういうことを何か考えられたらとても良いと思います。とりわけ子どもたちにとっては、その伝統文化が単なる自分たちのアイデンティティーを作るだけではなくて、自尊心や自己の確立につながるようなものになってくれたらとても良いと思います。加えて、グローバルな視点に立った人間とは自分の文化も分かりますが、違った相手の文化を受容して共生する、多様性の中で共生することもグローバル人材の一つの視点ですので、この国分寺市の素晴らしい文化がそのような形で発展し、つながり、広がっていくと良いと思います。

統括指導主事 授業で外国語活動がスタートすることになりますが、既に外国語活動は小学校3、4、5、6年生と学年で行っております。東京都から「Welcome to Tokyo」という冊子が配られており、まさにオリンピック・パラリンピックで海外の方が来たときに

日本のことをしっかりと伝えられるように、日本語でお伝えすることもできるし、少し簡単な英語でも説明ができるようにという内容で作られていると考えております。オリンピック・パラリンピック教育の中で、また外国語教育の中でも絡めて、子どもたちが自国や自分の地域の良さが発信できる機会を何かつくれないかということは今後も考えていきたいと思っております。

富山教育長職務代理者 例えば、伝統文化こども教室では、子どもたちは和服や踊りを自分で一生懸命お稽古をして、その良さを自分の体で表現するところまでの体験活動しております。豊かな体験活動をすると、人は伝えたくなります。それから、このような体験を持った子どもが伝える言葉には力が、説得力があります。そういう背景を国分寺市の子どもたちはたくさん持っていますので、そういう形でつながっていくと、子どもたちの自尊感情はとて高くなると思いますし、グローバルな視点に立った子どもの育成の大事な部分が育つのではないかと思います。

佐久間委員 続けて、文化振興課長にもお話を伺いたいと思っておりましたことが、伝統文化こども教室のことなのですが、御担当の文化振興課には募集から発表会の開催に至るまで、本当に力強い御支援をいただいております。講師として関わらせていただいております立場から、まずは御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

平成29年度第2回総合教育会議の中で、市によるPR強化をお願いしましたところ、従来の手法に加えまして、市のホームページ、cocobunji WEST1階の国分寺市案内所のデジタルサイネージ、ぶんバス内の広告、国分寺市行政広報番組「国分寺ぶんぶんチャンネル」における紹介、先ほど御紹介いただきましたPR用の動画の作成など、多方面にわたってPRを強化していただき、本当に講師一同、また参加している子どもたちも大変喜び、心強く励みになっております。ありがとうございます。

先ほど保護者にもそのPR動画を見ていただけるようにお知らせをしていただけたというお話がありました。ただ、現在まだ制作中ということなので、どのような形になるかということですが、当事者である学校の子どもたち、それから先生方に御紹介いただける上に、保護者の皆さんに子どもたちが本当にいきいきと伝統文化に取り組んでいる姿を見ていただけるように、本当は直接見ていただくのが一番ですが、まず知っていただくということが大事になってくると思いますので、それは大変貴重なことだと考えております。

伝統文化こども教室は、親子参加も対象になっておりまして、伝統文化を地域の中で継承・発展させていく取組でございます。子どもたちが伝統文化に興味を持つこと、指導者の熱意、保護者の理解が共に大切であり、それを継続していくためには、市の協力が不可欠となっております。今後も一層の御支援をお願いしたいと思います。

関連で、資料7の1番の文化講座の今後の展望で「内容により参加者の年齢が偏ってしまうため、幅広い年代が来場する講座となるように検討していく必要がある」と記載があります。先ほど課長からもお話がありましたが、このことはまさに伝統文化の継承と発展を考えるときの課題でもあると思っております。

先ほどより、伝統文化に関する授業を保護者や地域の方に見ていただけると良いのではないかとということや、伝統文化こども教室のPR動画を保護者の方にお知らせしてほしいということをお願いいたしました。伝統文化に関わる世代を見ましたときに、ちょうどその保護者の方々の世代が少なく、現在の子どもたちが受けているような伝統文化教育を受けていないので、触れる機会そのものが少なかった世代であるということが課題になっていると思っております。子どもたちに確実に継承していくためには、保護者世代の

方々が伝統文化に触れて、その価値とそれを受け継いでいくことの必要性を認識する機会を増やしていくことが大切ではないかと思っております。

そこで、文化振興課が御担当されています文化講座の中で、伝統文化に関して保護者世代が参加しやすい内容を時折取り上げていただくとよろしいのではないかと思います。資料裏面に記載のこれまでの講座内容を拝見しますと、平成23年度に「世界から再発信されるか 日本の伝統文化」というテーマで、伝統文化についての講座が開催されています。私事ですが、このときの講師、遠藤善博は私の父でございます。父が尺八の指導者としてロンドン大学から招かれ、現地の方に虚鐸という地無管の尺八の実技指導を行った体験談でした。日本人には敷居が高く難しいように思われている伝統文化が、わびさびの奥深い神秘の世界として外国の方々に大変尊ばれており、取り組む方々も増えていること、そのような現実を目を向けることにより、日本においても日本の伝統文化の魅力を再発見できるのではないかという内容で、スライドを用いた講話と尺八演奏が行われました。参加された方も大勢いらっしゃいましたし、大変好評でした。

今後、知っているようで知らない伝統文化の世界を親しみやすく、子育てにも生かせるような内容で、先ほどの富山委員のお話にも関連しますが、このような伝統文化を通じた教育にもつなげていけるような講座を開催していただき、子育て世代にも参加してもらえると良いのではないかと思っております。

文化振興課長 御意見ありがとうございます。文化講座に関しては、先ほど御説明させていただいたとおり、市民公募や文化団体連絡協議会から推薦いただいたメンバーにより構成されている国分寺市文化振興市民会議で決定をしております。佐久間委員の御意見である保護者世代を対象にした講座につきましては、文化振興課が事務局になっておりますので、会議の委員に伝えることは可能ですので、今後そのような保護者やお子さんが参加できる取組について、検討をさせていただきたいと考えてございます。

佐久間委員 できれば保護者の方だけではなく、お子さんも一緒に参加できると、なお良いと思っております。ありがとうございます。

伝統文化と聞きますと、堅苦しくて、敷居が高く、難しい特別なものという印象がまだあるかと思いますが、その内容は多種多様で幅広く、しかも同じ伝統芸能をとりましても、その中でも扱われ方や演目などにより、またその時に見てくださる、聴いてくださる方の状態によっても、印象は本当に大きく異なってくるものでございます。したがって、いろいろな機会に数多く触れてもらうことで、まずはどのようなものがあるのかを幅広く知ってもらって、その中でピンとくるものがあったら取り組んでいただきたいと思います。また、取り組む人を応援していくことも継承には大切なことであると思っております。楽しみながら続けていくうちに、長い時間かけて受け継がれてきた確かなものは身につけていきますし、自身の人生や地域を豊かにしてまいります。そのように取り組んでいる一人ひとりが伝統をつなぐ継承者であるということです。特別な、専門にしている人だけが継承者だということでは決してないと思っております。そういうことを多くの皆さんと共有していけたらと思っております。

最後になりますが、第2次教育ビジョンの62ページの公民館事業及び76ページの史跡の活用に、伝統文化に触れる機会の例が載っております。様々なアプローチにより、日本の伝統文化の継承及び発展に向けた取組が市内においてさらに広がっていくことを願っております。

市長 佐久間委員の熱い思いを伺いました。御指摘あったように、伝統文化に関わって

いる方と言うと、私もいろいろところに行きますが、高齢者の方は非常に多く、また、子どもたちには伝統文化に触れる機会があります。その間の世代が少ないように感じます。子どもたちも受験等で離れてしまっていて戻ってこないこともあります。継承していくには、多世代にわたって継承者が育っていくことが必要ではないかと思っております。

大木委員 国分寺市伝統文化こども教室は非常に素晴らしい企画だと思いますが、より多くの子どもたちに体験してもらうための取組が必要だと思います。先ほどからお話が出ておりますように、どうしても敷居が高い、特別なことという印象を受けるかと思っております。それこそまさに教育委員会との連携になると思いますが、例えば学校の総合的な学習の時間に1回でもこのようなことを体験してみると、おもしろかったと感じ、次にこのようなチラシなどをいただいたら行ってみようかという気にもなるのではないかと思います。最初からこのような格調高い文化が一覧になっていて、講座回数が全部で20回となりますと、なかなか難しいかなと思ってしまうかもしれません。一度体験して、その敷居を一旦低くして、おもしろそうと感じてもらった上で教室に来ていただくという取組もできるのではないかと思います。したがって、学校での取組を伺おうと思っておりましたら、先ほど学校指導課から事例の御報告がありました。そのような体験ということでの学校との連携や、公民館、児童館などで1回だけの体験教室があると、よりつながるのではないかと思います。これはあくまでも個人的な感想です。

教育長 私が校長をしておりました四小などでは、総合的な学習の時間で伝統文化を学ぶということで、たくさんの外部講師の方にお越しいただいてありがたいと思った次第でございます。しかし各学校からすると、やはりまだ敷居が高いと感じる部分もあります。また、その講師の先生方の予定を合わせることも非常に大変な状況でございます。例えば文化振興課が一つの窓口になってくれて、依頼すると調整していただける等、気軽に頼めるような形でできればとは思っているところです。子どもたちにとっては本当に大切な学びですし、ぜひ多くの保護者の方にもこの文化を学んでいただき、継承していただけたらと思っております。国分寺市として大切にしていきたい部分でございます。

市長 そのあたりについては、教育委員会と連携を取ってどのような形でできるか、窓口の一本化というお話がありましたが、そちらも含めて文化振興課長に研究をお願いします。

富山教育長職務代理者 文化振興という視点と、教員の働き方改革という視点からお話します。

小学校ではクラブ活動があって、中学校には部活動があります。その中で、スポーツの面では地域の方にコーチなどの指導を依頼できております。文化の面でも、踊りや茶道、花道などに詳しい地域の方を招聘して、クラブ活動の一部あるいは多くの部分を御指導いただいている市内の学校は幾つかあると思います。それが拡充されていくと、文化振興と教員の働き方改革の2点から非常に良いと思えました。

統括指導主事 委員おっしゃったように、その文化の内容を専門の方に教えていただくことは大変貴重な機会だろうと思います。先ほど教育長からありましたが、その方々との調整は非常に難しいところもあると思いますので、その点も含めて今後部活動の中に生かしていけないかというところを進めていきたいと思っております。

市長 熱い話は尽きませんが、もう一つテーマがありますので、次に進ませていただきたいと思います。

続きまして④「東京2020大会後のスポーツ施策・オリパラ教育の推進について」でござ

います。いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック大会が本当に間近になりました。東京2020大会を一過性のものとするのではなく、様々なレガシーを残したいと考えます。オリンピック・パラリンピック教育やスポーツ振興以外にも、地域振興の観点で様々な施策を展開しているところがございます。どのように市長部局・教育委員会が連携をして、レガシーを残していくのか。そのような視点も含めて皆様から御意見を頂戴できればと思っております。

大木委員 今回の意図に合っているかは分かりませんが、ボッチャの普及ということをお考えいただいたことが、非常に素晴らしいと思えました。先ほどの御説明にもありましたように、ボッチャを行うことによって障害や障害のある方々の理解にもつながります。これはいわゆるゲームを通して、みんな同じ仲間なのだという視点や意識を自然と身につけることができると考えています。小中学校でもボッチャの体験授業を実施した、いろいろな交流などもあったということ伺いまして、私は以前から申し上げておりますように、障害のある方に対して特別な支援をするのではなく、困っていたらお互い助け合うのが当たり前で、その当たり前の支援をするという意識を国分寺市の子どもたちには身につけてほしいと考えております。お互いに仲間として、障害の有無や体格等に関係なく、平等に楽しめるそのゲームなどを通して、いわゆるハードルを下げると言いますか、そのような意識を身につけるといふことにおいて、非常に良いボッチャの普及をお考えいただいたと先ほど拝聴いたしました。ぜひこのようなことを通して、子どもたちの意識を高めるとともに、市民の皆様にも、子どもたちはあまり考えなくても、大人になるといろいろ考える方もいらっしゃいますので、よりみんなでお互いに障害の有無にかかわらず、同じ仲間なのだということを実感していけるように、ぜひ活動をお進めいただければと思います。

市長 本当にボッチャは様々な方が楽しめます。最近では、eスポーツという競技もあり、必ずしも全てが体力を要するものではありません。ボッチャもそれに近く、高齢者や障害者にも楽しめるスポーツだと思います。体力がなければできないという問題ではありませんから。

スポーツ振興課長 国分寺市は共生社会ホストタウンとして国から認定を受けています。共生社会というのは相手のことを気遣い理解をして必要なときには必要な手を差し伸べるという関係が地域の中で起きていくということが最終的なあるべき姿なのではないかと担当として感じています。

ボッチャという競技は大木委員がおっしゃったとおり、本当に障害があってもなくても、また年齢も様々な方が同時にプレーできて、手を抜かなくてもいいというか、そのようなところも魅力と感じています。「ここにボールを置くにはこのぐらいの力で投げたほうがいいよ。」など、チームの中で自然なコミュニケーションが生まれますので、まずは多世代で、また障害のあるなしに関わらず楽しめるという点に重点を置いて、このボッチャの普及について進めてまいりたいと考えております。

辻委員 私もボッチャの普及は大変素晴らしい事業だと思います。先ほど、国分寺保育園とにんじんホームで交流イベントを行い成功に終わったというお話を伺いまして、オリンピック・パラリンピックに向けてのイベントとして終わってしまうのではなくて、ぜひ定着していただけたら良いのではないかと思います。まさに障害の有無や体格・体力・年齢に関係ないことを本当に体現しているようなイベントで素晴らしいと思えたので一言だけ申し上げました。

市長 これはどのようなきっかけで始まったのですか。自主的に始まったのですか。そ

れともどちらかが声をかけて始めたのでしょうか。

スポーツ振興課長 ボッチャを活用した交流につきましては、国分寺市スポーツ推進計画に幼児に対するスポーツを普及していくことがテーマとしてございました。また同様に体力がなくても楽しめるということで、高齢者へのスポーツの普及の二つの目標がございました。そこでまずは保育園にアプローチを行いました。そうすると、地域の中で子どもたちがどのように育つかが課題というお話を受けました。そうであれば、その二者をボッチャを使って結びつけられないかといったところで企画をいたしました。

実際にボッチャの用具の貸出しをしてみたところ、どうしても保育園児の場合は、例えばかけっこが速い子、ボールを速く投げられる子が注目されがちなのですが、1人「ボッチャの神様」と呼ばれる子が現れました。その子はあまり運動が得意ではないようなのですが、ボッチャになると、空間把握やボールを投げる時の力加減が上手にできるということが見出され、他の子どもたちから注目を浴びたということもありました。

このような活動があつて、他の園からもボッチャの用具の貸出し依頼が来ておりますので、幼児へのスポーツ普及という点では、良い手が打てたのではないかと担当者は評価しております。

市長 本当に良い試みだと思います。私もいろいろなところへ呼ばれますが、本当にこんなスポーツまであったのかというぐらい、広がりを見せているような気がいたします。スポーツを行おうと思えば、障害を持っている方でも、高齢者でも、スポーツができないということはないと思います。特に今回のパラリンピックはそれを証明してくれるのではないかなと思っております。

佐久間委員 私事で恐縮なのですが、唐司あみさんのお母様との仲間つながりで、あみさんを応援するボッチャのチームができました。その名前が、「にしこくアミーゴ」と言ひまして参加させてもらっています。

先ほどお話がありました、ボッチャは頭を使います。もう本当に楽しいやら難しいやらで、体を使うというよりも頭を使うようなスポーツです。本当に初心者から熟練の人まで、どんな方でも楽しめる良いスポーツだと思います。

私はなかなか予定が合わず試合には出られないのですが、東京2020大会の恩恵を受けて、思いがけずアスリートの応援をすることになり、スポーツを楽しむ機会をもらえて嬉しく思っております。スポーツの裾野を広げることは大事だと思っておりますが、非常に意義深いことだと、裾野の裾のほうにいる体験者として実感しております。

富山教育長職務代理者 共感しながら聞いております。私の家に小学生2人が遊びに来ました。2人ともサッカーが大変上手な小学生なのですが、思いがけず、学校でボッチャの体験をしておもしろかったというので、話が沸くのですね。私からすると、サッカーで走り回っている子どもが、なぜボッチャに興味津々で「おもしろいんだよ」となるのかは非常に不思議に思いました。ボッチャはやはり難しいのです。したがって、相談し、作戦を練り、教えながら協議を行っていくと少しずつ上達していきます。そこが熱中する点なのかなと思いました。私はテレビでボッチャを見た時に、本当におもしろいのかと思いましたが、子どもたちは少し体験するだけで、そのおもしろさに引き込まれていくスポーツなのだなど先日知って驚いた体験を持っているだけに、皆さんのお話を伺って、ああやっぱりそうだったのだなという感想を持ちました。

たくさんのスポーツがあつて、その中には自分の大好きなスポーツもありますが、知らないスポーツや嫌いなスポーツも当然あります。東京2020大会を通じ子どもたちが見て、

体験して、聞いて、いろいろなスポーツに出会ったときに、その感動がお互いに共有でき、人と人がつながっていく体験が、たくさん生まれてくると良いなど、皆さんの話を聞きながら、また東京2020大会を思いながら、非常に期待するものが大きいと感じております。

一言付け加えますと、たくさんの方が集まってくると、スポーツだけでなく宗教や民族や違いがたくさん国分寺市の周りに集まって来ます。たくさんの方の違いをどのように共有して共生していくか、多様性を自分の中に取り入れていくかということで、子どもたちが平和的に生きる資質を、オリンピックを通して培ってくれたら一番嬉しいと思います。

市長 多文化共生というところまで及んで話していただきました。教育長、最後に一言いかがでしょうか。

教育長 いよいよ東京2020大会が近づいてきたところでございますが、先ほどからお話に出ている唐司あみさんは、小中学生のときにはほとんどスポーツには触れておりません。高等部に進学してボッチャに触れて、本当に楽しんで、練習場はないかということで、四小にもお話があつてということで大活躍しております。とても嬉しく思っております。パラスポーツに視点を当てることはとても大切なことで、そこから人と人とのつながりがまた広がっていくことを期待したいと思っております。

学校では、オリパラ教育ということで4年間実施をしてきました。その集大成ということでありますが、オリンピックの精神、スポーツの祭典であるとともに、平和を願う心も大切にしていかななくてはなりませんし、先ほどからお話に出ている文化を発信し、受け止めること、環境という視点など様々あると思います。そしてスポーツを見る、する、支えるという視点で多くの学びをしてきましたので、これを今回のオリンピックで終わることなく、継続をして、さらに国分寺市がスポーツのまちとして充実するように、頑張りたいと思っております。

市長 御意見がたくさん出て、時間が足りなかったという感じがいたしますが、共生社会ホストタウンとして認定をされた国分寺市であります。誰もがスポーツを楽しむ、または親しめる、そして交流できる、いろいろなことが体験できる、多様性を認める。様々なことが東京2020大会を契機に、また広がりを見せるのではないかと思っております。

本日は4テーマ設けたのですが、少しもったいなかった感じがいたします。総合教育会議でありますので、教育委員会では日頃からいろいろな形で子どもたちの指導や学校教育、社会教育に及ぶところの御協議、御支援をいただいておりますが、市長部局も文化やスポーツ、その他いろいろと関わる部分もございます。本当に一体となって行っていかなければいけませんので、この総合教育会議という場が持たれております。

本日のお話だけでも、皆さんからたくさん意見をいただきました。これからまた様々な取組ができるのではないかと思っておりますので、お互いに連携しながら、私は予算をつける立場でもありますので、これからも協力していきたいと思っております。

本日は長時間にわたって御協議いただきましてありがとうございました。おかげさまで多くの成果が得られたと思っております。ぜひこれからも一緒になって、国分寺市民のため、そして子どもたちのために頑張っていきたいと思っております。

3 その他

市長 その他、事務局から何かございますか。よろしいですか。

それでは、これもちまして令和元年度第2回総合教育会議を終了とさせていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございました。